---

### スライド0

皆さん、おはようございます。投資診断協会認定講師の○○と申します。本日はよろしくお願いいたします。では、早速始めさせていただきます。本日は子育て世代のマネー講座ということで、90分間お話させていただきますが、今回は○○市教育委員会様の後援をいただきまして開催させていただくことになりました。たくさんの方にご参加いただいておりますので少し緊張しておりますが、一生懸命お話させていただきますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

### スライド1

想定外のことが起こるのが人生ということですよね。いろいろありますね。例えば今だと、この円安どうなっちゃうんだろうとか、何で円安になってるんだろうとか、いろいろなことがあると思います。老後の年金は自分の想定通りにもらえるんだろうか、大丈夫なんだろうかとか、生きているといろいろなことがあります。知らなかったことは想定外のことになってしまうので、今回の講座を通じて、少しでも知っていること、想定内のことにしていただけたらいいなと思ってお話しさせていただきます。

### スライド2

そして、もう一つ初めに、この私たちの投資診断協会について少しお話をさせていただきます。日本に正しい投資の考え方を根づかせるという理念のもと、2018年に設立いたしました。2018年というと6年前ですが、「投資」という言葉のイメージはどうでしたか。「怖い」とか「騙されるかも」とか「お金が減る」といったネガティブイメージを持っている方が多かったと思います。私たちは資産形成に投資は必須だと考えていますので、そういった啓蒙活動を行いたい！少しでも多くの方に「正しいお金の知識」をお届けしたいという想いで、私もこの投資診断協会の理念に賛同して今回のような活動をさせていただいております。

### スライド3

そして、実際にこのように写真がたくさんありますが、これは全国の学校でこのような感じで子供たちに私や全国の投資診断士が中学校・高校・大学の授業で金融教育を実施させていただいています。それから民間企業でも、従業員様向けのお金の勉強をしようということで、私たちが講師になって、こういった金融教育や投資の勉強をしています。

### スライド4

自己紹介

### スライド5

自己紹介

### スライド6

本日はこのようなテーマでお話していきます。現状を知り計画を立てよう、それから将来の自分のためにお金に働いてもらおう、それから徹底的に無駄をなくそう！

### スライド7

今の3つのテーマをこんな順番でお話していきますね。現在の日本と新しい考え方、それから資産運用基礎知識、ここが一番ボリュームがあるかなと思います。そしてNISAのお話、結構皆さんご興味があるんじゃないかなと思いますが、こちらもここでお話しさせていただきます。それから資産運用成功の秘訣、どうやったらうまくいくか、それもここでお話していきたいと思います。というわけで最初のところに入っていきたいと思います。まず、今、政府はどんなことをやっているのか、資産所得倍増プラン貯蓄から投資へとこんなことをやっています。

### スライド8

というわけで最初のところに入っていきたいと思います。

### スライド9

まず、今、政府はどんなことをやっているんでしょうか？ 資産所得倍増プラン貯蓄から投資へとこんなことをやってるんですね。

### スライド10

これは成長と分配の好循環と言っています。七つの柱と言っていろいろ掲げていますが、要は、いろいろ優遇してあげるからしっかり投資して資産を増やしてね、ということだと思います。国はそういうことを言いたいのだと思います。

### スライド11

その背景にはこういうことがあります。これは1998年から20年間の個人資産、家計資産のデータです。家計の預貯金や株などの増加率ですが、アメリカ、イギリス、日本のデータです。アメリカは2.7倍、運用によってお金が生まれた部分が大きいです。それに対して日本は1.4倍、運用リターンは1.2倍にとどまっています。もし貯金が今の2倍あったら、もっといろいろお金を使えませんか？そういう話です。きっと今より生活も良くなりますよね。

### スライド12

なぜこんなに違いが出たのか考えてみましょう。これは家計の金融資産構成です。日本人は現金を持ったり銀行に預けて、半分以上を現金と預貯金で持っています。アメリカはどうでしょうか？運用資産に半分以上預けてるんですね。日本の人は銀行に預けるのは、減らしたくないからなんですね。アメリカの人も、減らしたくないからです。

最近あることを実感しませんか？物価って上がってるんだなって。どうやら物価って上がるものらしい。最近すごく実感します。アメリカって、ずっと物価が上がり続けてるんですね。それが正常な社会なわけです。銀行に預けていると、例えば一年間で3%物価が上がると、100万円の価値は97万円になっちゃうわけです。それが毎年毎年続いていったらどうなるのって、お金の価値がどんどん減っていくわけですね。これを経験的に知ってるから運用資産に預ける。そういうことが習慣化してるんじゃないかなと思います。

以下に、各スライドの文章を修正したものを記載します。

---

### スライド13

実際に東京の物価がどうなっているか見てみましょう。昭和40年から10年ごとのデータがあります。ちゃんと物価が上がっているのが一目瞭然だと思います。

### スライド14

では、例えばカレーを見てみますと、私は昭和〇〇年生まれですから、昭和50年頃のデータを見ると、当時はカレー1杯が284円でした。カレー一杯280円って聞いたら、具が入ってないんでしょって思いますよね。この頃は、具沢山のカレーが一杯280円で食べられるわけです。しかも東京でですよ。今は平均800円だそうです。

### スライド15

皆さんが気になる教育費はどうなっているのか見てみましょう。これは私立大学の文系の授業料ですね。やっぱりずっと増え続けています。

### スライド16

また、学費だけでなく生活しているといろいろなお金がかかってきますよね？ざっと大きな金額の費用を抜粋しましたが、確かにいろいろとお金がかかりますよね。

### スライド17

次に、奨学金の現状についてお話しします。今、大学生のうち奨学金を使っている人は2人に1人だそうです。これは別に悪いことではないと思いますが、なんと奨学金の返済を延滞する人が13人に1人いるそうです。これが新たな社会問題になっています。

### スライド18

どんな問題なのかと言いますと、これは新聞などにも取り上げられています。奨学金破産という言葉を最近よく聞きますが、大学を出て、働き出して何らかの事情で奨学金の返済ができなくなってしまうということです。奨学金を借りるときに保証人を2人つけることが多いです。大抵は親御様が保証人になるケースがほとんどです。そうなると、子供が働き始めた後に奨学金を返せなくなる頃には親は定年していたりします。仕事をしていなかったりするので、子供が破産して親にも保証能力がなくなり、自己破産が連鎖してしまう・・・こんなことが起こっているそうです。そういう話をすると奨学金制度が悪いように感じるかもしれません。普段コンサルティングしているときに「奨学金を使うといいですよ」と話すと、嫌な顔をされる方もいます。奨学金をただの借金と思っている方が案外多いという印象です。

私は、奨学金は素晴らしい制度だと思います。まず制度の趣旨として、今はお金がない、経済的に厳しいけれども、上の学校で学びたい！夢を叶えたい！という子供たちを応援してくれる制度です。とても良い制度だと思います。

### スライド19

一方、年を取ってからの話ですね。60歳で貯金ゼロ、10人中何人いると思いますか？実は、10人中3人なんです。もっと言うと、16人に1人が老後破産状態だそうです。あなたはそうならない自信がありますか？

失礼いたしました・・・今日聞いていただいている皆さんは、絶対ならないと思います。だって大事な時間を使って一緒に勉強してくださる皆さんですから、そういう方は絶対ならないはずです。

ただ、60歳で貯金ゼロの方も、よし！60歳のときに貯金ゼロになるぞって目標を立ててそうなったわけではないですよね。もちろんいろいろな事情があったかもしれませんが、なんとなく生きていたらそうなってしまったという方も多いのではないかと感じます。

### スライド20

実際、本当に長寿社会になっていますね。男性の平均寿命は81歳、女性は87歳と言われていますが、それをゴールにして予定を立てるのでは不十分です。実際に一番多く亡くなるのは、男性は87歳、女性は93歳だそうです。

(エピソード)昨年、私の親戚の祖母が亡くなったのですが、98歳でした。お葬式に来てくださった方の中には100歳を超えている方もいましたし、90代の方もたくさんいらっしゃいました。長生きしているんだなと感じました。

### スライド21

そうするとですね、老後が不安な20代の若者がたくさんいるわけです。75%の若者がそう感じています。

私も若いお客様がたくさんいらっしゃるのですが、老後が心配だと言って積み立てをしたがるんですね。若いうちからそこまで一生懸命積み立てるだけでなく、好きなことにもお金を使えば？と言うのですが、こんなことを言われています。

先進国の寿命は1日5時間のスピードで伸び続けているとか、2045年には平均寿命が100歳に到達すると予測されているとかですね、

『人生100年時代』と言われるようになった発端は、英国の学者リンダ・グラットン氏らの著書に書いてあったのですが、2007年に生まれた人の50%は107歳まで生きるとかですね。私たちはこの長生きリスクにどう備えれば良いのでしょうか？長生きってリスクではなく、喜ばしいことだったのではないでしょうか？というわけで、私たちができることは、自分でしっかりと資産を増やしていくことです。

### スライド22

一つは稼ぐ。本業ですね、お仕事を頑張る。また、今は副業OKの会社もありますから時間があったら副業をしてみる。とか、今の仕事では稼げないなら思い切って転職を考えてみる。そうやってあらゆる稼ぐ力を鍛えていただく。それからこれも大事ですね。節約です。電気をこまめに消すとか、安いものを探して買うとか、これらももちろん大事です。しかし、住宅ローンや自動車ローンの組み方を考えたり見直しをする。それから保険を見直しする。これは結構インパクトがあります。まだやっていない方はぜひやっていただくと良いと思います。それから運用する。資産運用、今日はこの話を聞きたくて来ていただいている方や見ていただいている方が結構いらっしゃるのではないかと思いますが、資産運用について後ほどしっかりお話ししますね！

### スライド23

その中で、少し節約について触れたいと思います。稼ぐ力はものすごく大事ですが、本当にすぐにできる節約についてお話しますね。いろんなところでセミナーをさせていただいていますが、ちょうど1年前にこのセミナーにご参加いただいた方のお話をさせていただきますね。

以下に「てにをは」を修正した文章を記載します。

---

### スライド24

12年前にお子さんの誕生をきっかけに3000万円の死亡保険に加入されたのですが、こんな感じですね。43歳のときに入ったと。A社とB社の2社で3000万の保障で2万1000円払っていらっしゃいました。

### スライド25

このセミナーを受けたことをきっかけに、ちょっと見直してみようかなと思われて私の個別相談を依頼してくださったんです。そうしましたら、なんとですね、3000万円の保険に入り直したら毎月1万4340円で済むようになり、7000円ほど安くなることがわかったんですね。

### スライド26

さらにもっと言うとですね、B社とC社は実は同じ会社です。結構勘違いされている方や、そう思っている方が多いのですが、若いときに入った保険の方が安いと思っている方がいらっしゃいます。

### スライド27

無し

### スライド28

もちろんそういう保険もありますが、そうでない保険もたくさんあります。どんどん死亡保険は安くなり、良くなっていますね。理由は生命表の見直しなどいろいろありますが、その説明は皆さん興味ないでしょうから今日はやめますね。

とにかく若い時に加入したから絶対に安いというわけではないんです。この方は、結果として毎月1万7000円保険料が浮いたんですね。この方は無料のセミナーに参加して、残り10年間で200万円ほど節約できたと言って本当に喜んでいただきました。

さらに気づいたんです。あれ？待てよ・・・65歳のときに3000万円の死亡保険は必要ないよね？って。必要な保障だけに入ろうということで、だんだん減っていく逓減型の保険で見積もりをし直したら、毎月4350円で済むことになったんです。

ですから、保険に入るときには、必ず見積もりを取っていただくと良いと思います。というわけで、私の保険は大丈夫かな？不安だな？と思われた方は、個別相談を今回は無料で開催いたしますので、セミナー終了時にご案内させていただきます。本当にお気軽に聞いてくださいね。

### スライド29

というわけで、三本柱で頑張っていただきたいわけですが、残念ながら二本柱の方が多いんですね。一生懸命お仕事をして、一生懸命節約している、そういう方が多いです。でも、なかなか資産が増えないんです・・・というご相談は本当に多いです。

### スライド30

これは金融常識が変わっているわけですね。高度成長期・・・こんな時代は終わりました。今はご存じの通り少子高齢化に変わってきています。終身雇用で定期昇給して退職金をしっかりもらえて、年金もたくさんもらえたと、金利が高かったという時代はもうないんですね。退職金がなかったり、我々の世代で年金だけで暮らせると思っている人はいないですね。

### スライド31

だから、今まで我々の親や祖父母がやってきたようには、私たちはいかないわけなんです。親から教わった常識ではもうやっていけないわけです。今までの常識が通用しないということなんですが、どうすれば良いかなんてわからないですよね？わからないことって面倒くさいですよね。ただ、もう長生きの時代ですから、将来の自分が「あのときやっておいて良かった」と思えるように、今から備えていただくことがすごく大事だと思います。

### スライド32

というわけで、三本柱で頑張っていただいたら良いのではないかなと思います。では具体的にいきますよ！

### スライド33

一番大事なことは、計画を立てるということなんですね。

### スライド34

例えばキャンプに行きます。キャンプに行くという目的があるわけですね。そしたら、計画を立てますよね？どこのキャンプ場に行こうかな？とか、テントをレンタルしようかとか、車は誰が出すの？とか。楽しいですね。お肉は何グラム？とか。で、雨が降ったらどうしよう？ってそこでリスクマネジメントするわけです。人生も一緒ですね。ライフプランを立てるわけです。いいですよね？

### スライド35

人生も一緒ですね。ライフプランを立てるわけです。子供は何人ほしいなとか、家はいつ買おうか、そういうことをいろいろやりたいことがあるわけですね。それをマネープランに落とし込むわけです。そして、どんなことがあっても、きちんとそれが実現できるように保険をかけるわけなんです。あくまで順番は上からなんです。たまに逆の方がいるんですよ。知り合いが保険屋さんだからとか、会社にセールスの方が来たのでそれを勧められて入りましたとか。皆さんは、ちゃんと上から順番になっていますでしょうか？でも、そうでない方は、思わぬ損をしている可能性がありますよ。心配な方は私に相談してくださいね。

### スライド36

ありますね、こういう方いらっしゃいます。今月車検なんだよね・・・と2年に一度の車検さえ、想定外になっていませんか？ね！車を買ったらいつ車検が来るかってその瞬間にわかるわけですね。これはライフプランで2年後に車検が来るとわかっているわけです。そしたら毎月6250円貯めると、2年間で15万円貯まるわけなんです。ライフプランってなあに？ということなんですが、これからどんなことにお金がかかるのかな？やりたいことって何かな？とか、子供が何歳のときにあれをしてあげたいからこれくらいかかるかな？とかですね。

### スライド37

ライフプランってなあに？ということなんですが、これからどんなことにお金がかかるのかな？やりたいことって何かな？とか、子供が何歳のときにあれをしてあげたいからこれくらいかかるかな？とかですね。そういうことをグラフにして、貯蓄残高でどういうふうに変化していくのか確認していただくと、その通りに生きていけるのか？っていうと、実はなかなかそうは思っていません。例えば、転職してもだいぶ変わりますよね。いろんな出来事で変わりますが、変わったらその都度ライフプランをやり直せば良いわけです。その通りに生きなくても、大体我が家の家計の傾向は見えてくるわけですね。ただ、想定内を増やしていくことは本当に大事だと考えています。

### スライド38～スライド40まで(ご自身のライフプランソフトの活用をお願いします。)

### スライド41

大事なのでもう一度お伝えしますね。計画を立てましょう！想定外のことを想定内にしていきましょう。

### スライド42

人生の三大資金、お金がかかること、三つありますね。よく言われます。教育資金、住宅資金、老後生活資金ですね。

以下に「てにをは」を修正した文章を記載します。

---

### スライド43

今日は教育資金について！皆さんがご興味のあるところに触れていきたいと思います。

### スライド44

これは、私立・文系4年生・自宅から通学のパターンのデータですね。このパターンが一番多いのではないかなと思います。私立文系4年生、それから自宅からの通学で4年間にかかる費用ですね、690万円かかるそうです。このお金を18年で貯めようと、お子さんが生まれてから月1回、毎月貯めていきます。皆さんお給料は月1回ですよね？そうすると掛け算すると216回のチャンスしかない？216回もあるんだ！さあどちらでしょうか？ね、割り算してみましょう。1人当たり3万2000円毎月貯めてください。これね、3万2000円なんですが、2人いたら6万4000円、3人いたら9万6000円と、なかなかインパクトのある数字になってくるわけです。

### スライド45

さあ、学費を貯めるなら皆さん何をしますか。一番多いのは学資保険かもしれませんね。ちょっと試算してみました。35歳の男性で、35歳のお父さんが、0歳の赤ちゃんの男の子が生まれました。400万円を大学に入るときに貯めたいなということで、毎月1万8000円、18年払ってくださいということでした。絵にするとこんな感じですね。毎月コツコツ貯めて、満期が来たら受け取る。これ、合計で389万円払ったら400万円を受け取れると、ちょこっと増えていますね。2%ぐらい増えています。ふんふん、なるほどと。

### スライド46

さて、先ほど物価を見ていただきましたが、ここ18年間ですね。18年間で119.5%アップだから、私立大学文系の授業料は約2割高くなっているんですね。18年間で2割増えていますが、学資保険で2%増えた。これは教育費の積み立てとして成功したと言えるのでしょうか？

### スライド47

ただ、学資保険にはこういった機能があります。契約者、今回だったらお父さんが亡くなると保険料払い込みが免除されます。お父さんに万が一のことがあったら、その後の保険料は支払わなくてもよくなるんですね。例えば5年で亡くなると1万8000円掛ける12ヶ月の5年で108万円ですね。108万円だけ払って、満期の時には400万円になるわけです。3.7倍になるわけですね。

### スライド48～49

というわけで、学資保険の特徴をまとめてみました。契約者に万が一のことがあっても、決まったときに決まった金額を受け取ることができる。これは安心ですね。保障があるということです。ただ、学費の分だけなので少し小さい保障になります。学費分だけ保障が欲しいという方にはいいかもしれませんね。

ただ、過去から現在までの実績を見ると、ほとんど増えていないのが事実であり、物価上昇を考慮したらどうだったのだろう・・・と感じます。この学資保険がほとんど増えない理由は何でなのかと言ったら、史上最低利率で超低金利の18年間の固定金利が、学資保険は長いものだと22年とかありますが、超低金利で長期間固定の積み立てをする。これは増やしたいという考えでいたなら、ちょっとナンセンスだなと思います。

学資保険に入った目的があると思うんですね。貯めたいし増やしたいという方、それから学費の分の保障が欲しいという方、皆さん目的にちゃんと合っていますか？今一度確認していただくと良いと思いますね。

今日、聞いていただいているたくさんの方の中にも、学資保険をやっているという方、今一度ちょっと確認してみてください。教育費の積み立てをやっているけどインフレのことなんか考えていなかった・・・とか、目的と合っていないかもという方、えっ！これもう始めちゃっているけど、もうどうしようもない、最後までやらなきゃいけないかなと思った方！決してそんなことはないですよ。気づいたときにちゃんと軌道修正することです。修正する方法もありますので、もし気になる方がいらっしゃったら個別相談などでご相談いただければ方法をお伝えできると思います。

### スライド50～52

というわけで、三大資金がありますが、さあ、借りることができないのはどれでしょうか？

えーっと、これ借りれないですね。基本的には厳密に言うと、例えばリバースモーゲージと言いまして、簡単に言うと自宅を担保にしてお金を借りて亡くなったときに精算するというのはありますが、使い方も限定的なので今日は割愛させていただきます。

老後のお金は、やはりなかなか良い条件で借りることができないですね。奨学金などはよく話しますが、借りなきゃ損ですよと話しますね。教育費には、教育ローンや奨学金があります。住宅ローンも、親の援助や家を買うときは皆さん住宅ローンを借りますね。

(過去から現在までのインフレ率と住宅ローン金利だった場合)

それから、家を買うときには頭金もできる限り少なくしてください。頭金を入れたら大損します。あとは、繰り上げ返済も絶対にやってはいけませんね。結構そういう方が多いんですよ。住宅ローン控除の間は一生懸命お金を貯めて、ローン控除が終わったらまとめて繰り上げ返済したいという方。あとは退職金で住宅ローンを少し減らそうという方もいらっしゃいますが、これ本当に大損するので絶対やめた方がいいですね。

詳しく聞きたい方や本当にご興味のある方は、ぜひ個別相談で聞いてくださいね。

### スライド53～54

それでは、老後生活資金の話をしていきます。2000万円問題ってありましたね。ここでは詳しく触れませんが、モデルケースのご夫婦が老後に平均寿命まで生きるとお金が2000万円足りないという話でした。

以下に「てにをは」を修正した文章を記載します。

---

### スライド55～57

そんな話もすごく騒がれたのに忘れちゃいましたね。総務省統計局が出しているモデルケースですが、老後にどのくらい生活費がかかるかというと、夫婦で毎月28万円ぐらい使っているのですが、年金は夫婦合わせて約20万円が平均とのことです。

では、支出の項目を見ていただいて、ここに食料、つまり食費がありますね。7万6152円です。これ、2人以上世帯の収支ですが、まあ2人だとして最小人数で見ると、7万6000円割る30日割る3ですね。そうすると一人当たり846円くらいでしょうか？

そうするとね、846円1食当たり夫婦2人で846円というのが、このモデルケースのイメージです。お家は持ち家です。これで28万7000円かかっているわけですが、100歳まで生きると1億2000万円かかるんですね。うーん、老後もお金がかかるんですね。その中で収入のところを見ると、この社会保障給付というところが19万8000円ありますが、これが公的年金ということになります。そしてその他と不足分がありますね。これは企業年金や私的年金など、自分で用意したものや、他には仕送りなどです。

その足りない分、これが大体8万9000円あるわけです。これ、女性の平均寿命の87歳まで生きると2300万円足りない。100歳まで生きると3700万円足りないということになるんですね。なかなか大変なわけです。それ以外にも老後にはお金がかかるわけですね。

### スライド58

医療費や介護費など、病気になって高額な治療が必要になることもあるかもしれませんね。

### スライド59

医療費や介護の話だけではなく、旅行に行きたいなという楽しい話もしましょうね。平均1人5万8000円かかるそうです。年2回、80歳まで15年間行くと350万円かかるということです。海外旅行も行きたいですよね。

お得なツアーを調べてみましたら、4万円から20万円ぐらいありました。でも、それ以外にお食事代などがありますよね？1日1万円で見たんですが、もっとかかるんじゃないでしょうかね？円安ですし、5日間行ったら5万円です。そうするとやっぱり何百万もかかるわけですね。それ以外にも、生活に車が必要な方は、車のお金もかかるでしょうし、それからあとは住宅のリフォーム代もあります。あとは、そうですよね、お子さんに援助してあげたいねとか、老後もいろいろお金がかかるわけですね。もし、皆さんの寿命よりもお金の寿命が短かったらどうでしょうか。大変ですね、ということで、資産運用をやってみましょうということで、次のセッションに入りたいと思います。

### スライド60

もし、皆さんの寿命よりもお金の寿命が短かったらどうしましょう。

### スライド61

はい！ということで次のセッションに入りたいと思います。資産運用の基礎知識に入ります！

### スライド62

さあ、これを知りたいという方が多かったのではないかと思います。NISAって何ですかって、これですね、少額投資非課税制度と言います。結構、何となく漠然とNISAって何かよくわからないけどやったらお得なんでしょうとか、やったら儲かるんじゃないか、つみたてNISA最高！S&P500かオルカンで放っておけばいいんでしょ？という方が私の印象ではすごく多いです。

よくわからないけどいいらしいという方がすごく多くいらっしゃいます。もちろんいい制度なのですが、ただこれって投資で利益が出たら、通常20.315%の税金がかかるわけなのですが、NISAを活用すれば税金はかかりません。だから、株価が上がって儲かったら税金を払わなくていいですよという、そういう制度なのですね。

ただ、海外の株式だったら、本当はかかるのですが、そういう細かい話は今日は置いておきますね。

### スライド63

本当に投資で利益が出るんですか？とね、利益が出るんですか？ここが気になるところだと思います。少し投資の話に入っていきます。お金の話に入っていきますね。皆さん72の法則って聞いたことありますか。

スライド64

これね、72を金利で割ると、お金が倍になる期間がわかります。具体的に見ていきましょう。

スライド65

例えば100万円を3%で運用すると、こういうことになります。72÷3＝24年なんですね。24年で100万円は200万円になります。

次に6%だったら、72÷6で、12年で倍になるんですね。

そうすると次の12年で、また倍になってしまうわけです。9％だったら、すごいですね。72÷9＝8年で倍になっているわけです。

今、皆さんお金をどこに預けていますか。銀行に預けて0.001%だったら遅いですね。

もう遅い、我慢できない。7万2000年経ったら、どうやら銀行に預けてたらお金が倍になるらしいですよ。誰も生きていられませんね・・・

スライド66

これをね、ちょっとグラフにしてみました。100万円を30年間運用したらどうなるの？3%だったら、100万円は242万円になるそうです。

6%だったら574万円、9%だったら1326万円、増えますねー。

あれちょっと待ってくださいね。これ、3と6、6と9、同じ3%の違いなんですけどね。

3と6だったら330万円くらい違いますね。あれっ？でも6と9の3%だったら、700、750万円くらい違うわけですね。

同じ3%の違いなのに、なんでこんなに結果が違うんだってことなんですけれども、

これはね、複利だからですね。複利って、元々の元本に利息を加え、新しい元本として再投資していく仕組みなんですね。ん？なんて？って思いますよね？

簡単に言うと、利息にも利息がつくよってことなんです。

スライド67

同じ3%の違いなのに、なんでこんなに結果が違うんだってことなんですけれども、

これはね、複利だからですね。複利って、元々の元本に利息を加え、新しい元本として再投資していく仕組みなんですね。ん？なんて？って思いますよね？

簡単に言うと、利息にも利息がつくよってことなんです。

こんなの資料のようにポンポンとどんどん大きくなっていくよと、そんな話なんです。

スライド68

これをアインシュタインはこんなこと言ったんですね。複利は人類による最大の発明だと言っています！

知っている人は複利で稼ぎ、知らない人は利息を払うと。おっしゃる通りでございますね。こんなこと言ってたんですね、アインシュタインが・・・・

スライド69

今度は、時間の話をしますね。今は金利の話をしました。

ちょっと金利君にはお休みいただきますね。

時間の話です。まずは時間を味方にする。60歳で1000万貯めたい30歳の人はね、毎月2万7000円貯めると1000万たまるそうです。

40歳の人は毎月4万1000円、50歳の人は、毎月8万3000円なんですね。これね、単純に割り算しただけです。

30歳の人だったら30年かけて12ヶ月、360ヶ月、360回、50歳の人は10年ですから、120回ですね。

ただの割り算の話ですね。当然、早く始めた方が毎月の負担が軽いんだよっていう話です。ただ、全員貯めたお金は負担が軽かろうが重かろうが1000万は1000万なわけです。いいですよね？

今度は金利君に働いていただきましょう。6%で運用できたらどうなるのか、さっきと一緒で60歳で1000万です。

スライド70

今度は金利君に再登場してもらって、今度は働いてもらいます。もし6%で運用できたらどうなるんですかね？

さっきと同じで60歳で1000万貯めたいんです。

びっくりしてくださいね！

30歳の人は月1万1000円、40歳の人は2万3000円、50歳の人は6万2000円ですね。やっぱり早く始めた人の方が楽ですが、金額はさっきより少なくなっていますね？

トータルみんないくら払ったのって見てみると、ほら！早く始めた方が少ないわけなんですよ。さっきは負担が軽かろうが重かろうが1000万は1000万でした。

金利を味方につけると負担も軽く、自分で出したお金も圧倒的に少なく済むんですね。

これはですね、複利で利息に利息がつくからですね。だから早く始めた方がいいよってことなんです。ただ・・・・・・

スライド71

こういう話をすると、皆さん必ずこう言うんです。6%なんて無理でしょって。6%無理かどうか見ていきましょう。

スライド72

まずね、アメリカ各運用資産の推移なんですね。上から株式、今赤いラインのところですね。次が長期の国債、短期の国債、あと金ですね。

それからあと現金で持っていた場合、株は年平均でこれは1802年からなんですけど、過去200年間年平均6.6%でずっと成長しています。

大体見ていただくと、この赤いライン、このラインに対して、上がり過ぎたら下がる、下がり過ぎたら上がる、これを繰り返しているわけですね。前よりも上がって下がって、前よりも上がって、

これを平均への回帰性といいますが、ずっと右肩上がりに成長してきたよ。

なんとですね、1ドルが70万ドルになっています。

この200年で70万倍になっているんですね。何もしないで現金で持っていたら、毎年1.4%価値が減っていった。100分の5になっていますね。すごく減ってしまいましたね。

ちなみに、みんな大好きな金ですが、これ今はもう少し高いですけど、これ1802年からの200年で4倍にしかなっていないですね。

株式は70万倍ですね。

スライド73

じゃあ、先進国全体を見ていったらどうなのと、1970年から2020年までに100万円を投資した場合のリターンを見てみますと、2757万円だったんですね。100万円がこれもやっぱり上がったり下がったり、前より上がって下がってってね、小さくも大きく、それを繰り返しながら・・・・ここがすごくポイントです！ずーっと経済成長してきている。ということがわかるんですね。

スライド74

皆さんねきっとこう思ってるんです。不動産には価値があると思っているんですね。

不動産オーナーの権利って何っていうと、投資用物件、収益物件を持っていると、毎月家賃が入ってきます。そして不動産を売ったら現金が入ってきますね。

まあ、その通りですよね。

スライド75

株式もね、実は一緒なんですね。

株主の権利って、株を持っているとその企業の業績によって毎年変わりますけど配当が入ってきて、その株を売ったら現金になるわけです。

株っていうと、何か非常にギャンブル性が高いとか、ギャンブルみたいなものだとか、そういうものだと思っている方がいらっしゃるんですけど、株式も不動産も実は同じなんです。

同じ資産です。アセットなんですね。

スライド76～77

では、その株価ってどうやって決まるのかを見ていきますと、

短期的な株価は、投資家心理で決まるんですね。例えば、新型コロナウイルス、もう4年前か、早いもんですね。コロナウイルスが蔓延したときも、やばいんじゃないかって。家の外に出ちゃいけないみたいな。

世界は終わりじゃないか？みたいな状況になり、株価がコロナショックとかでドーンと下がりましたね。うわーやばいよー早く株を売らないとまずいということで株価が下がったわけですね。

まあ、すぐに株価は戻りましたけどね。

こうやって、いろんな政治的経済的、こういう社会のニュースで、株価って変わって動いているわけです。

では、長期的な株価ってどうなのって、これはもうその企業の価値で決まるんですね。

例えば、今1億円、会社にありますよと持っている会社があります。

そして100株発行しています。発行済み株数100株、僕は1株持っています。この会社が解散しましたって言ったら、1億円割る100なんですよ。ですから100万円もらえるわけなんです。

そして、その企業が毎年利益を出し続けて成長していった場合は、会社にお金がどんどんたまっていった。

成長して10億円持っている会社になりました。そして解散しました。発行済み株数は同じく100株です。

そうすると10億円割る100なんで、僕は1000万円もらえるわけですね。だから、本質なんですね。本質で決まるわけですね。心理じゃなくて企業価値、本質で決まるんです。

長期的にはやっぱり株価がそこに落ち着くわけなんですね。

スライド78

皆さんここで質問なんですけれども、お子さんが生まれたときに、服を買いましたよね。

当たり前です！って感じですよね。おもちゃもいっぱい買いましたよね。

あっという間にこの間買ったベビー服がパツパツになってびっくりしたりしてね。かわいかったですよねー？

ごめんなさい。話を戻しますね。これは要は人が増えると、人口が増えると、どんどんどんどん経済が大きくなっていくよっていう話なんですね。

スライド79

コカ・コーラっていう会社がありますよね。世界一の炭酸飲料メーカーです。他にもね、ペプシとかいろいろあるわけなんですけど、コーラには敵わないわけですね。新規で炭酸飲料メーカーを作ろうなんて誰も思わないわけですよ。

ちょっと作ったとしても、どうせ来年吸収合併されちゃうんですね。アメリカなんかそんな感じですよね。

炭酸飲料を飲める程度の中産階級の人たち。。。今まで水を飲んでいた人が、炭酸飲料を飲みだして、この30年間ずっと増え続けているそうです。

スライド80

だから、コカ・コーラ社の株式っていうのは、この30年間ずっと右肩上がりで上がっています。コーラを飲める人が増えているからコーラが売れますよね？

では、その人口ってどうなっているのと？見てみましょう。

たぶんこれ気づきにくいのは私たちくらいなんですね。少子高齢化って言われている日本だとピンとこないんですけど、人口って増えているんですね。

僕が子供の頃っていうと世界の人口は50億とかそのくらいで学校で習った気がしますけど、ちょっと前だと「男の数は35億」って言ってましたよね。ということは70億だったんですね。

それが今は、80億人ぐらいいるわけですね。さらにこのデータだと2100年には111億人になるとか、想像つきませんね。でも人口が増えていることは確かなんですね。

スライド81

他にも、経済やテクノロジーも進化しているわけです。通信機器、最初の携帯電話はこんなだったそうですね。さすがにこの時代は知りません。

でも、これは知っています。初めて持った通信機器がポケットベルでした。もっとかっこいいやつでしたけど。

今皆さんが持っているのはこれですよね。スマートフォン。もう個人が持つこういう通信機器ってこれ以上発展しないのでしょうか？

どうやら、こんなものになるらしいですよ。そんな話もあるわけですね。もうこんなですよ、SFの映画みたいになるかもしれないと。こうやってね、経済活動を人間が行っているわけです。人間には欲があります。

もっと儲けたいとか、自分の開発した技術を世に知らしめたいとか、有名になりたいとかね。いろんな欲があるわけです。

だから、こうやってどんどんどんどん世界が便利になってきたわけです。もう成長は止まらない。そう思いませんか？

止まってしまう、そう思ったら経済は成長しませんね。そう思う人は株式投資しない方がいいですね。

でも、これからもどんどん便利な世の中になって経済が大きくなっていくって僕はそう考える方なんですね。

スライド82

これ、バッタとかカブトムシが経済活動を行ったらわかりませんよ。何を考えているかわかりませんからね。

でも人間には欲がありますから、これからも経済は成長していくんじゃないかなと思っているわけです。コロナというパンデミックがあっても人類は歩みを止めないわけです。

スライド83

それをね、調べた人がいます。こういう話をですね、トマ・ピケティさんっていうフランスの経済学者なんです。

10年ちょっと前だったと思いますが、『21世紀の資本』って本が世界中でベストセラーになりました。

この人はどういうことを本に書いて、なぜ素晴らしいと言われたかというと、過去200年のお金がどうやって生まれたかを調べたんですね。

そしたら、労働によって生まれたお金よりも投資によって生まれたお金の方が多かったよっていうことなんですね。それを調べたわけです。だからお金持ちは投資してどんどん豊かになっていく。それに対して、投資をしないで働いているだけの人は、相対的にどんどん貧しくなっていく、これって問題だよねということを問題提起していたんですね。

やっぱり投資しないといけなかったんですね、ということがわかりますね。

スライド84

じゃあ、ここまでお話してきましたが、時間と金利を味方にすること、そしてどうやら経済は成長していく。人口も増えていくんですよね？

ということは、株式投資で失敗するわけがないよね・・・でも何で失敗してしまう人がいるんですかね？

すごく大事だと思います。原因はこれだと思うんです。戦略がないからだと思うんです。

NISAも同じですよ。あとでお話しますが、成長する企業に投資をしないとお金は増えません。まず戦略の話をしますね。

スライド85

資産運用するときには、ちゃんとゴールを設定しましょうと。

何でかというと、ゴールが決まらないと戦略を決められないですよね。ゴールが決まれば戦略が決まるわけです。目的地がわからないと戦略なんて決められないわけですね。

例えば、短期で短い期間でお金を増やしたいというゴールを設定するのであれば、

それに成功するためには予想して当てるしかないんですね。ですから、この株はきっと上がるなって予想したところにお金をたくさん入れて、更に一括投資するわけです。

それが上がったら儲かるよって、それを繰り返していく。こういう戦略をとればいいわけです。いいですよね？

ただ、予想して当てることは難しいそうなんですね。

調査をした人がいるわけです。アメリカの大学の先生、テトロックさんって人。この人は、全米のエコノミストやアナリスト、もう頭の良い専門家、この人たちが予想したものがどのくらい当たったかを調べたんですね。

スライド86

いやーな調査をした人がいるわけです。アメリカの大学の先生、テトロックさんっていう人なんですけど、

この人は、全米のエコノミストやアナリスト、もう頭の良い専門家、この人たちが予想したものがどのくらい当たったのか、経済のニュースとか、どのくらい当たったかっていうのを調べたんですね。

どのくらい当たったと思いますか？

48.9%です。笑　株価が上がるか下がるかですよ？ということは二分の一で当たるんですよね・・・

これを、テトロックはチンパンジーが投げ出すのと一緒って言ったんですね。どこに飛ぶかわかんない、そういうことなんですね。

そういうことを言うと、短期で増やしたいんだ、予想して当てるんだ！っていう考え、それは駄目なことのように思われるかもしれないですけど、そういうことをしなきゃいけない人がいるんです。機関投資家や職業にしている人、ファンドマネージャーとかですね。

スライド87

そういうことを言うと、短期で増やしたいんだ、予想して当てるんだ！っていう考え、それは駄目なことのように思われるかもしれないですけど、そういうことをしなきゃいけない人がいるんです。機関投資家や職業にしている人、ファンドマネージャーとかですね。

スライド88

要は、長い期間かけて成果を出してもお給料は上がらないわけですね。クビになっちゃうわけです。だから決まった期間の中で成果を出さなきゃいけない人は、やっぱり予想して当てなきゃいけないんですね。短期でやるには、それが最善の戦略だと思います。

スライド89

さあ、

長期で増やしたい、教育資金を作りたい、老後資金を作りたい、そういう場合どうしたらいいですか？これはですね・・・成功要因は、さっきお話したような世界経済が発展していけばいいんですね。

そのときには、分散投資や積立投資をすればいいわけです。別に予想して当てたりとかしなくていいわけですね。短期で増やすには、予想を当てる能力とか、売買を繰り返す時間が必要なんです。　　　　　　　　けれども

スライド90

長期で増やすには、それは必要ないんです。必要なのは文明の利器だけです。これだけ使っていただければいいんです。これね、皆さん絶対使ったことがあります。

これはですね、後ほどお話したいと思います。

スライド91

それでは、資本所得を得るためにちょっと資産運用をやってみましょう。

スライド92～102

では、100万円を投資してみましょう。ちょっと練習してみましょうか？

スライド

さあ、どの会社に投資しますか？

スライド

Aという会社はですね、10年間で株価が1000円から2000円になりました。2倍になった。

スライド

Bという会社は1000円が1000円で変わらなかった。

スライド

Cという会社は株価が1000円から500円、半分になっちゃった。

スライド

最後はDですね。最悪です・・・7割引き、10年間で3割になっちゃった。

スライド

並べてみました。

さあ、いきますよ！

ABCDどの会社に投資すると一番儲かったでしょうか？ぜひ皆さん、すいませんが指差ししていただければと思います。いきますよ。

スライド

A　そりゃそうですよね。1000円が2000円、倍になりましたから、100万円は200万円になりますね。

D社は1000円が300円になっちゃいましたからね。100万円は30万円になっちゃいます。簡単ですね。

スライド103～116

さあ、次はちょっと投資のやり方を変えてみます。10年間毎年10万円投資してみてください。

スライド

同じくどの会社に投資しましょうか？

スライド

さっきと同じABCDの4社です。さっきは100万円一括投資でした。今回は10年間で10万円ずつ、合計100万円の投資です。

どの会社に投資しますか？いきますよ。せーの、

スライド

A

あれっ？D？　こちらからね、皆さんの姿見えないんでもう残念なんですけど、きっとびっくりした顔していただけてますよね。

これ、どうしてこういうことになったのかちょっと見ていきたいと思います。

スライド

まずA社ですね。こういう話なんです。毎年10万円ですから、10万円でその年の株価が1000円です。ですから10万円割る1000円で100株買えます。翌年は株価が下がって600円でした。

スライド

毎年10万円ですから、10万円でその年の株価が1000円です。ですから10万円割る1000円で100株、株を購入することができたんですね。ふむふむ

スライド

そして翌年は株価が下がって600円でした。10万円割る600円で167株。

スライド

次の年は株価が1200円に上がりました。10万円割る1200円で83株・・・そんな感じで、トータルで919株買えたんですね。

スライド

そんな感じで計算していくと、トータルで919株買えたんですね。

スライド

そして最後に売却しましたので、2000円掛ける919株で183万円というわけなんですね。

スライド

さて、横ばいだったB社はどうだったかというとですね、

スライド

500円に下がったところがあるので、そのときにたくさん買えたんですね。

ということで、1000円掛ける1500株で150万円になりました。

スライド

C社はどうでしたかね？

スライド

C社もこれもたくさん買えるタイミングがあったのでたくさん買えました。というわけでかろうじてプラスになった。

スライド

さあ、一番わからないのはD社ですね。これは最悪ですね。買って2年目を見てください。大暴落して株価が10分の1になってしまいました。

スライド

でも、10万円で10分の1になったから前の年の10倍買うことができたんですね。

スライド

価格が安いのでたくさん買えたわけです。そんなわけで、10年間たくさんあったんですね。今、300円なんですけど、7100株持ってますので、213万円だったと。こんな話なんですね。

### スライド117

これはドルコスト平均法という買い方なんです。別にアメリカのドルを買うという話ではありません。

これは、価格が変動する金融商品を一定の金額で、時間を分散して定期的に買い続ける手法です。

要は、高いときには少ししか買えず、高値掴みをしない。そして、安いときにはたくさん買える、バーゲンセールでたくさん仕入れられるという感じです。

### スライド118

一括で投資すると、価格が上がったら嬉しいですね。でも下がったら悲しいですね。100万円が200万円になった。下がったときは100万円が30万円になってしまった。

さあ、積み立てでやった場合はどうかというと、価格が上がると当然資産が増えるので嬉しいです。でも下がったときにもたくさん買えるから嬉しいのです。購入量が増えるということです。というわけで、資産額、つまり現在の資産額は、今いくら持っているかと、どれだけ保有しているかの数量で決まるのです。

**ここからは参考資料です(119～125)**

### スライド119

ここでちょっと切り取ってみます。先ほどの先進国株式の部分ですが、この2000年から2020年までの20年間を切り取ってみます。

### スライド120～125

1000万円を20年間通して投資したらどうなったのでしょうか。

イメージしやすいように、60歳で定年退職したお父さんが1000万円を握りしめて、まあ実際には1000万円は握りしめられませんが（笑）

1000万円を持って先進国株式の投資信託を買いに行くとします。

そうして株式投資を始めたのですが、すぐにITバブルの崩壊で大事な老後資金1000万円が半分近く減ってしまいます。

「えー！やらなきゃよかった」とお父さんは泣いてしまいます。しかし、その後株価は戻っていきます。

「良かったー1200万円まで増えてやってよかったよ！」と思ったら、今度は100年に一度の大不況リーマン・ショックがやってきます。

また半分になってしまいます。お父さんはまた泣いてしまいます。しかし結局持ち続けた結果、20年終わってみたら1600万円ぐらいになり、「やってみてよかった！」という話になるのです。結果的に159.8%増えました。

### スライド

今度は、そのお父さんの3年後輩の方が2003年に無事定年退職して、1000万円を握りしめて先進国株式を買った場合を見てみましょう。

そうすると、ITバブルの底で投資を始めて、リーマン・ショックで少し元本割れしたこともありましたが、終わってみたら2527万円になっていました。2.5倍になったという人もいるのです。

### スライド

では、今度は積み立て投資をしてみましょうか。

同じ2000年から投資した人でも毎月5万円ずつ投資した人はどうなったでしょうか。5万円掛ける12ヶ月で60万円、20年で1200万円とします。

そうすると、ITバブル崩壊やリーマン・ショックがあったりして、少しマイナスになることもありましたが、1200万円が2000万円になり、167%、つまり1.67倍になりました。

### スライド

同じく2003年から投資を始めた場合の積み立て投資はどうだったか。毎月5万円、累計1020万円を投資したら、1597万円になっています。リーマン・ショックのときに少し赤字になりましたが、1.5倍になっています。

### スライド

これを四つ並べてみると、ちょっとわかりやすいですね。

一括投資はタイミングの影響を非常に大きく受けます。

### スライド

それに対して、積立投資はタイミングの影響を受けにくいのです。

### スライド126

こんな話もあります。

今1200万円持っているAさんとBさんですね。Aさんは「よし！思い立ったが吉日」と1月から毎月100万円、計1200万円としました。Bさんは市場を読みました。「マーケットを見極めよう」と、底を打った後の5月から毎月150万円、8ヶ月で1200万円としました。

Bさんはずっと右肩上がりだったので、Bさんの方が増えたと思うでしょう。しかし、終わってみるとAさんは1520万円、Bさんは1480万円になっていました。

だから積み立てや分割投資をするときは、始めるタイミングを狙ってもしょうがないということです。

### スライド127

というわけで、長期的に増やすには、文明の利器を使いましょう。

### スライド128

口座振替もしくはクレジットカード払いです。毎月買えるなら、毎月月末に買えばいいと思うかもしれませんが、そもそも面倒で忘れてしまいます。

それに先月よりも価格が上がっていたら、先月の価格に引っ張られて高く感じてしまいます。「下がったら買おう」と思っても、まとめて買おうとしたらさらに価格が上がって買えなくなってしまうこともあります。

逆もあります。「下がったらもっと下がるのでは」と思って買い控えたら、反発して上がってしまい買えなくなることもあります。ですから、感情を抑えて粛々と続けることがとても大事です。

感情が一番邪魔なのです。

### スライド129

ただ、そういうやり方をしても、ずっと下がり続けてしまったらお金は減ります。

### スライド130

上がったけれど下がった。これも損をします。ですから、成長するマーケットに投資しなければいけません。先ほど成功要因を話しましたが、世界経済が発展することが唯一の成功要因です。

### スライド131

というわけで、買うタイミングをずらすことでタイミングの分散を図りましょう。そして、どこが成長するか分からないので、投資先も分散することでリスクを減らせるのです。

### スライド132**(参考資料)**

ただ、いい話ばかりではありません。例えば、過去30年間毎月5万円投資した場合どうなるかのパターンですが、うまくいっていますね。1800万円が3900万円になっています。ただ、ここを見てください。リーマン・ショックのときです。

### スライド133**(参考資料)**

2000万円以上、2100万円くらいあったのが、1000万円まで下がってしまいました。始めて最初のうちはそんなに貯まっていないので暴落があってもいいのです。積み立てている間は、コツコツとやっているものも、いずれ大きい塊になるので、暴落があるとやはり大きく減ってしまいます。

こういうことがあるのは、ちゃんと頭に入れておいてください。万能ではないのです。ドルコスト平均法や積立投資、つみたてNISAやiDeCoなどがありますが、これらは決して万能ではありません。

大きくなってくると、やはり暴落のリスクがあります。ただ、リスクを回避する方法もありますので、興味のある方はぜひお聞きください。

### スライド134

こういう人もいます。ウォーレン・バフェットさん。この人はすごいですね。

株式投資だけで世界一のお金持ちになった方で、いろいろな名言を残しています。株式投資の真髄は「スノーボール（雪だるま）」と言っています。

雪だるまを転がすだけで大きくなる。株式投資も、長期にわたって値上がりする株式を選んでじっと保有していれば雪だるまのように大きくなるというのです。

また、「株を買ったら南極に行け」とも言いました。南極に行けば売ることも買うこともできないからです。今だとスマホでできてしまうかもしれませんが、トークセッションでこんなことを言いました。

### スライド135

「なぜみんなあなたの投資戦略を真似しないのですか？」と聞かれたバフェットさんはこう答えました。

「誰もゆっくりお金持ちになりたいとは思わないよ。」確かにそうですね。早くお金持ちになりたいものです。

ただ、教育資金や老後資金のようにこれから時間をかけて作っていくものに関しては、バフェットさんの運用方針や投資戦略を真似してもいいのではないかと思います。「雪だるまのように」という話ですが、私の先生はこんなことを言っていました。私も先生にいろいろ教わっていますが、情報収集し、勉強会に参加し、お金を払って先生から教わっています。

### スライド136

先生が言っていました。「北海道の雪で雪だるまを作ってはいけない。新潟の雪がいいですよ。」と。これは、北海道の雪はサラサラで転がしてもなかなか大きくならないからです。新潟の雪は適度に水分を含んでいるので早く大きくなるのです。どこで転がすかが大事だという話です。

ではNISAの中身をもう少し詳しく説明します。NISAには、つみたて投資枠と成長投資枠があります。

### スライド137

ではNISAの中身をもう少し詳しく説明します。NISAには、つみたて投資枠と成長投資枠があります。

### スライド138

どう違うのか？買付方法が違います。積立投資枠は、その名の通り積み立てでしか買えません。成長投資枠はスポット投資、一括投資ができます。もちろん積み立ても可能です。

### スライド139

対象商品、つまり買えるものも違います。つみたて投資枠では、国が決めたもので1月末の段階では281本あります。これだけしか買えません。成長投資枠は、自由にいろいろ買えます。

全部は説明できませんが、投資信託の場合は少し絞られていて、今日本で組成されている投資信託は6000本ありますが、そのうち2000本くらいには投資できます。

### スライド140

積み立て投資枠が120万円、成長投資枠は240万円です。

でも、こういう話をすると勘違いする方がいますが、360万円全部を積み立てに使っても大丈夫です。

### スライド141

非課税保有限度額は1800万円です。そのうち1200万円が成長投資枠です。

しかし、1800万円全部を積み立てても大丈夫です。

### スライド142

次に、これもすごいことですが、非課税保有限度期間は無期限です。ずっと税金がかからなくて良いのです。すごいですね。

### スライド143～144

枠の話を少ししていきますね。2024年に新NISAが始まりました。今はみんな生涯で1800万円の枠があります。

例えば、年間投資上限の360万円を今年投資したとします。すると、残りは1440万円になります。来年も満額投資したとすると1080万円ですね。こうやって毎年360万円を投資し続けると、最短で5年で枠がなくなります。

利益が出たので全部売ります！そうすると枠が戻るのです。ただし、2028年にすでに360万円を投資してしまった場合、その年はもうできません。2029年になると、年間上限額の360万円までまた投資が可能です。このような制度になっています。

### スライド145

こういった非課税、つまり運用益に対する課税がされない制度は他にもあります。企業型確定拠出年金や個人型確定拠出年金です。これも運用益に課税されません。

### スライド146

さらに、積み立てた金額に対して所得税や住民税もかかりません。

### スライド147

企業型確定拠出年金は会社が用意してくれる福利厚生の制度です。この制度で積み立てる分には社会保険料がかかりません。どう考えても、NISAよりもこちらの方が良いですね。

### スライド148

今の話を分かりやすくしますね！

例えば、新NISAで積み立てをする場合、額面1万円の給料をもらうと、社会保険料と所得税・住民税が引かれて7000円くらいが手元に残ります。それを投資します。そしてその運用益には税金がかからないという制度です。

これがiDeCo、個人型確定拠出年金の場合、1万円の給料をもらったら、手元に来るのは7000円です。その7000円を拠出するのですが、後で個人の税金が返ってきます。手元に1000円が来るというイメージです。

企業型確定拠出年金は、1万円の給与額面が出ても、私の財布には来ません。直接投資してくれるので、丸々1万円が投資できる制度です。これを見たら、どの程度使うのが良いかは明らかですね。

### スライド149

しかし、毎月や年間で拠出できる限度額が決まっているのは同じですし、NISAほど大きな金額は入れられません。

### スライド150

さらに、これは大きなポイントですが、60歳まで引き出せません。私には大学生の子供が二人います。教育費が大変です。お金がないときでも、確定拠出年金にはたくさんのお金があるという状況も起こり得ます。どの制度を使うかは、単純にその制度が良い制度だからという理由だけで考えるべきではないと思います。

### スライド151

ちなみに、投資は保険会社を使ってもできます。変額保険という運用型の保険があります。

死亡保険や解約返戻金、満期で受け取るお金が運用によって変動する、投資型の生命保険です。

ただし、これは亡くなったときにいくら支払われるかなどの保障コストがかかるため、コストが割高になります。

### スライド152

ただし、三大疾病（がんなど）に対する保険料の支払いを免除する特約もあります。保険会社が代わりに積立投資をしてくれるので、必ず貯めたい分は保険を使うというのは有りだと思います。しかし、全額を保険で運用するのはコストパフォーマンスが悪いのでおすすめしません。

この辺りも、どれくらい保険で運用し、どれくらいNISAで運用するか、ぜひ聞いてください。合理的にやりましょう！

### スライド152

これは、がんの年齢階級別罹患リスクですが、例えば私は今年47歳です。50歳近い年齢を見ると、70歳までは絶対に働こうと思っています。

70歳まで資産形成をするぞと思うと、19.7%、つまり5人に1人ががんになるわけです。

70歳までにがんになるリスクを考えると、保険を使っても悪くないかなと思います。

どうしても資産形成の話をすると、合理的で効率ばかりを追求する人が多いです。インターネットで見ても「保険でお金を貯めるのは絶対に駄目！」とか「損するよ」と言われますが、あれは「僕は病気にならない病」と呼んでいます（笑）。

この仕事をしていると、リスクマネジメントとしては最悪だと思います。

お客様からがん保険の請求があると、私のところに連絡が来ます。若い方でも意外とがんになることを知っています。

資産形成を考えるときには、健康でうまくいったときだけでなく、大きな病気をして収入が下がることも考えてやるのが賢明だと思います。リスクマネジメントとして保険に加入することも一つの方法だと思います。

### スライド153～157**(参考資料)**

### スライド158

というわけで、最後に資産運用成功の秘訣です。

### スライド159

いきなり秘訣と言いながら水を差すようですが、人の脳は投資に向いていないそうです。いろんなバイアスがかかるのです。

### スライド160

まずは、現在バイアスです。

将来の利益よりも現在の利益を重視してしまう心理傾向のことです。先送りしたがるのです。必要なことを後回しにしてしまいます。

なんとなく読んでいてわかるという部分もありますね。

### スライド161

それから、現状維持バイアスというものもあります。これは、知らないことや経験したことがないことを受け入れたくない、失敗を恐れて現状にとどまりたいという心理です。

資産運用を始めた方がいいと分かっていても、なかなか始められない。

もう言わないで、という感じですよね（笑）。でもこの傾向を理解すると、「そうなんだ、こう思ってしまうのは普通なんだな」と思えますよね。

そして改めて自分やお子様の将来のために前に進めば良いのです。

### スライド162

それから、こんなものもあります。まだあるんですね(笑)

損失回避バイアス

利益を得たときの喜びよりも、同額の損失をこうむったときの悲しみの方が強く感じられるということです。これは勝手なものです。

交通違反で2万円の切符を切られた場合、4万5000円もらわないとその傷は癒えないそうです。これは、資産形成によって得られる老後資金よりも運用で失敗する可能性を過大評価してしまうということです。

### スライド163**(参考資料)**

これも同じです。先ほどのITバブルの崩壊やリーマン・ショックなどで、大切な老後資金が減ってしまうと、長期的には回復するはずだと頭では分かっていても、「これ以上減ってしまったらどうしよう」という気持ちが抑えられなくて運用をやめてしまうのです。

ですから、感情に流されないゴール設定と専門家によるコーチングが必要です。

### スライド164～172　**(ご自身のライフプラン表を使用してください。参考資料)**

だからこそ、ゴールを決めて運用を始めるのです。

ゴールはいつでしょうか？

### スライド

これは、最初に見ていただいたお客様のライフプランです。

### スライド

この方にとって、ここが積み立てのチャンスだったわけです。良いですね。

### スライド

余裕があるのはここです。

### スライド

このように見たおかげで、この方は「今やるしかないね！」と判断し、使われていない預金も結構ありましたので、

### スライド

このくらいを運用に回してみようということになりました。

### スライド

世界経済が発展し、このようになったらいいなということで、支出は全く見直しませんでした。

### スライド

貯金の預け先と積立の方法を修正して、老後に受け取れるような年金を作りました。

運用型の年金にしたのです。

資産形成がうまくいけば、安心できる老後が迎えられそうだと、時間もあるし、長期運用だからきっと大丈夫だろうということで、非常に安心していただくことができました。

### スライド

これから毎月積立したらいくらになるかとか、目標額を貯めるためにはいくら積み立てたらいいかと現状把握してゴール設定をする。

そうすると、どのくらいのリスクを取って、どんなものに投資すれば目標が達成できるかが見えてくるのです。

ですので、是非現状を把握すること、ゴール設定をすることをやっていきましょう。

### スライド175

今日最後に、ファイナンシャルアドバイザーと一緒に資産形成を成功させた日系アメリカ人の方をご紹介して終わりにしたいと思います。

この方はジョイス・キムラさんという方です。

### スライド176

27歳から数学の先生として学校に勤めました。当時は給料が少なく、投資なんてできないと思っていたそうです。

しかし、アドバイザーから少額でもいいから毎月積立投資を始めましょうと言われ、始めました。毎月3000円の積立で始めたそうです。当時の月給は8万円だったそうです。

### スライド177

そして、10年が経ちましたね。無理をせず、できる範囲で積立額を増やしていこうというアドバイスの通り、毎月の積立額を増やしていきました。

振り返ると、資産残高が増えてきて面白くなってきたそうです。いいですね。

### スライド178

さらに10年が経ちました。46歳のときです。アドバイザーから「日々のマーケットの動きに一喜一憂せず、長期的な視点を持って投資を続けよう」というアドバイスを受けて、

マーケットが下がったときにも、不安になっても売却は一切せず、投資を継続しました。ジョイス・キムラさんは、ずっと右肩上がりの株価ではありませんでした。当然ですが。

### スライド179

そして54歳のとき、アドバイザーに相談しました。

55歳を前に退職を検討して相談したそうです。中学校の先生は大変ですよね。それで仕事をやめようと思ったのですが、

アドバイザーから「人生はまだ長いから、もう少し働いて積立を続けよう」と言われました。それで積立額を増やしたそうです。

この頃にはマーケットの上下は気にならなくなったそうです。

64歳のときに退職しましたが、積立も運用も終わりにせず、運用は継続して必要な分だけ取り崩していこうというアドバイスに従いました。

### スライド180

そして64歳のときに退職をしましたが、積立を終了し、運用は継続しました。当初は必要な分だけ取り崩していくという方針に従いました。この頃には資産残高は7000万円にもなっていたそうです。

### スライド181

現在78歳のジョイスさんは、趣味の海外旅行などを楽しみながら、運用資産を切り崩して生活し、経済的な安心を得ています。

ポイントは、早く始めたことと、投資を続けたことです。

### スライド182

というわけで、90分間ご清聴いただきありがとうございました。みなさん、いかがでしたでしょうか？

わかりにくかったところや、気になるところ、具体的に知りたいことがある方のために、今回は個別相談の機会を後からご用意させていただいております。

### スライド183

ライフプランを作りたい、どの金融商品を買ったらいいか相談したい、住宅購入について相談したい、NISAやiDeCoのどれを使ったらいいかなど、

せっかくの機会ですので、わからないことはぜひお聞きください。

お金のことには正しい答えがあります。お子様の大事な教育資金やご自身の老後資金について、

私は、冒頭でも申し上げた通り、合理的に組み合わせるべきだと強く考えています。

今回は○○教育委員会様に後援をいただいておりますので、無料でご興味のある方は個別相談に乗らせていただきます。お気軽にご連絡ください。

### スライド184

それでは、この後は司会の方からアンケートのお願いと個別相談のお申し込み方法についてご説明がありますので、最後までよろしくお願いします。

本日は、皆様ありがとうございました！